

研究結果報告書

研究結果

「日本租界の再生と新たな価値の創出に向けた戦略的研究： 開発の最前線・天津における文化遺産保存の可能性」

本研究では、天津市にある日本租界に関する文献資料を収集した上で、現状を把握し、現地調査と聞き取り調査による分析結果に基づき、再生と新たな価値の創出に向けて、歴史的な街区の保全の可能性を探った。

まず、天津日本租界の道路骨格のインテグリティとオーセンティシティについて。近年、天津都市部の開発及び大規模緑地建設の影響を受け、租界の北側にある幾つの街区がなくなったものの、戦前最新の日本租界地図と現状地図との比較、及び現地調査から、道路の残留率が非常に高く、道路骨格から見た日本租界のインテグリティとオーセンティシティが極めて良く保たれていることが明らかになった。

また、建物の歴史及び現状について、現地調査と共に、元日本租界居留民及び現住民に対してアンケート調査と聞き取り調査を実施した。その結果、現在の建物の半分以上が日本租界時代の建物であると分かった。一方、1939年の水害によって外壁が大きな被害を受けたり、1976年の唐山大地震によって、建物の全体や部分の建て替えが多く見られたりし、建物のオーセンティシティが道路骨格ほど保たれていないこともわかった。

従って今後、建物の建て替えを視野に入れた歴史的な街区の保全が考えられる。その際、オーセンティシティの高い道路骨格をこのままに保存するところが極めて重要である。また、今まで、建て替えの際にセットバックが行われたため都市景観が大きく損なわれ、今後、改築後建物の規模を制限すると共に、セットバックが行われぬように規定する都市計画の法律や条例の成立が求められる。一方、建物の保全について、歴史と芸術的な価値の高い建物を保存するほか、都心の住宅地という昔からの性格を維持することも大事だと思われ、小規模住宅という特徴を生かし、若い世代の賃貸住宅などに活用するなどの手段が考えられる。

今後、典型的な街区を対象に具体的な再生案を検討することを課題とした。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「天津元日本租界における道路骨格のオーセンティシティに関する研究」
発表者：鄭穎 会議名：日本建築学会
日時：2011年8月23日～25日
場所：早稲田大学(日本)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「天津元日本租界の道路におけるインテグリティとオーセンティシティについて」
発表者名：鄭穎、蘭旭、尹秋朦
掲載誌：建築学報(中国建築学会学会誌)
掲載時期：2011年9月(予定)
「天津日本租界の街並み再生について」(2011年9月『建築学報』に投稿予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)